

医療ソーシャルワーカーの教育養成に関する日・米・英の比較研究 —その全体像と展開—

熊谷忠和*¹ 井上信次*¹ ティム・クレミンソン*²

要 約

本研究は、わが国の社会福祉養成教育に大きく影響を与えてきた、いわば先行例としての英国と米国のとりわけ保健医療に特化したソーシャルワーカー養成教育の動向や現状さらには課題について現地調査を含め踏み込んだ調査を行い、わが国のソーシャルワーカーの養成教育との比較において共通点、相違点さらに適合あるいは非適合について検証することを目的としている。さらに最終的には、学術会議の提言で示された社会福祉教育のあり方についての見直しの方向を踏まえ、よりspecificな領域としての医療ソーシャルワーカーの教育養成のあり方について、わが国の現状に見合ったより相応しいモデル提示を目的とする。本稿は本研究の概要と研究の初期段階で得られた結果についての短報とする。

1. 研究の着想

筆者の一人は、長年にわたり医療現場での医療ソーシャルワークの実践と大学及び大学院での医療ソーシャルワーカーの教育養成に携わってきた。また1989年から2004年まで医療ソーシャルワーカーの職能団体である(社)日本医療社会事業協会の常任理事や副会長を歴任し、特に医療ソーシャルワーカーの教育養成や認定基準の検討に中心的役割を担った。その中でも社会福祉系大学での教育養成のあり方について、特に関心を向け研究並びに社会活動を継続してきた。その意味で、日本学術会議社会学委員会社会福祉分科会よりの「近未来の社会福祉教育のあり方について—ソーシャルワーク専門職資格の再編成にむけて—」(2008年7月14日)¹⁾と題する提言(以下提言とする)に強く触発された。そこでわが国の医療ソーシャルワーカーを含むソーシャルワーカーの教育養成のあり方についてこれまでの研究の集大成をはかり最終的な結論を見出すべく本研究の着想に至った。

2. 研究の全体構想

わが国のソーシャルワーカー養成のあり方につい

ては、「社会福祉士及び介護福祉士法等の一部を改正する法律」(2007年11月28日)において、実践的なソーシャルワーカー養成を目指し大きくカリキュラムや養成体制の見直しが行われた。また2008年には、前述の日本学術会議からの提言が示されたところである。この提言では、国民の生活が多様化・拡大化・複合化する中で、ますますソーシャルワーカーには高度な実践性と専門性が求められており、その役割を遂行していく為にソーシャルワーカー養成教育のあり方を問い直す必要があるとしている。具体的には国家資格である社会福祉士をgenericな専門職資格と位置づけ、二階建て部分としてソーシャルワークの領域ごとに特化された理念や、原理、知識、技術を習得したものに対して認定資格を創設するなどとしている。

保健医療領域のソーシャルワーカー(医療ソーシャルワーカー)は、領域ごとに特化する必要のある代表的な領域である。今般の提言を待つまでもなく、一部の社会福祉系大学や職能団体では比較的早くからその模索が行われている。なお、川崎医療福祉大学では2003年より医療ソーシャルワーカーを目指す学生にコース制を導入し社会福祉士カリキュラ

*1 川崎医療福祉大学 医療福祉学部 医療福祉学科 *2 川崎医療福祉大学 医療福祉マネジメント学部 医療秘書学科
(連絡先) 熊谷忠和 〒701-0193 倉敷市松島288 川崎医療福祉大学
E-Mail : tkumagai@mw.kawasaki-m.ac.jp

ムの上乗せとして3年次より「医療福祉現場実習指導Ⅰ・Ⅱ」及び「医療福祉現場実習」を開講している。また現任者認定としては2004年より社団法人日本社会福祉士会と社団法人日本医療社会事業協会の共催により専門研修を実施している。

一方、わが国の戦後における社会福祉養成教育は、幾多の議論を経つつも基本的には米国と英国のソーシャルワーク養成教育に強く影響を受けてきたといえる。特に現在の社会福祉系大学のカリキュラム基準の骨格がGHQやCIE (Civil Information & Education Section) の指導や勧告によって進められた「社会事業学教育基準」(1947年12月15日)にあることは歴史的事実である。その基盤の上に、わが国固有の歴史的背景や社会的、文化的、あるいは政治的状況などが作用して現在の社会福祉養成教育の内容に到達している。また米国や英国において、類似の萌芽があったとしても、わが国と同様に、それぞれ異なった社会的文化的状況の中で、社会福祉養成教育の発展経緯あるいは現状があるところである。

そこで本研究の全体構想は、まずわが国の社会福祉養成教育に大きく影響を与えてきた、いわば先行例としての米国と英国のとりわけ保健医療に特化したソーシャルワーカー養成教育の動向や現状さらには課題について現地調査を含め踏み込んだ調査を実施することであり既に取り組んでいる。そしてわが国のソーシャルワーカーの養成教育との比較において共通点、相違点さらに適合あるいは非適合についての検証に向けている。最終的には、学術会議の提言で示された社会福祉教育のあり方についての見直しの方向を踏まえ、よりspecificな領域としての医療ソーシャルワーカーの教育養成のあり方について、わが国の現状に見合ったより相応しいモデル提示を目的とする。

3. 国内・国外の研究動向及び本研究の位置付け

米国や英国のカリキュラム基準を見る限り、医療ソーシャルワーカーの教育養成は、ソーシャルワーカーの教育養成に包括され、他のソーシャルワークの領域と同様に、実習の分野として選択する形態となっている。特に、米国においては、領域において特化する知識や技術への関心より、ソーシャルワークの多様な理論アプローチ研究が進んでいることから、各大学の教育養成への関心はCSWEの基準をふまえ、advanceは理論アプローチをいかに活用させるかに焦点があてられ、各大学のあるいは研究者の推奨する理論アプローチの妥当性を問う研究に重点がおかれている。また、英国においても1990年の改革以来、ソーシャルワーカーの一元化が図ら

れて、よりgenericな教育基準が敷かれている。つまり、米国や英国における大学や大学院の教育養成においては、いわゆるジェネリックソーシャルワークgeneric social workに重点が置かれているといえる。従って、本研究も、専門領域に特化した教育養成の在り方から踏み込む方法とはならず、まずgenericなソーシャルワーカーの教育養成の在り方を比較した上で、特化した教育養成について検討を進めることとする。

わが国におけるソーシャルワーカーの教育養成に関する研究は古くからされており、国際比較研究も、「福祉専門職の展望」(京極高宣, 1989)に代表される多くの研究はある^{2,4)}が、ソーシャルワーク教育全般のカリキュラム基準の枠組み提供に留まっている。本研究のような実習・演習の教育内容や実践家からの評価に踏み込んだ比較研究はない。村上によると、ソーシャルワーカーの教育養成の内容またはカリキュラム等に関する研究は、(1)ソーシャルワーカーの養成における教育科目の検討に関する研究、(2)既存の教育カリキュラムの検討に関する研究、(3)ソーシャルワーカーが望むべき専門的知識に関する調査などが存在するとしている⁵⁾。その意味では、本研究は(1)から(3)を横断的に網羅するといえる。ただし、本研究はとりわけ演習や実習に焦点を当てたものであり、その展開方法(講義展開)や実習指導の体制、さらに実際の現場において適合的な形で求められるソーシャルワーカーの力量competencesといった観点、例えば他職種との連携に必要とされる統合的行動様式の検討まで踏み込むこととする。

なお、次頁に、現在までに収集できている本研究との類似研究と考えられる海外文献を掲げておく(表1)。

4. 本研究の具体的展開

本研究では、上記の全体構想をふまえ、①ソーシャルワーク教育養成に関する、国や政府レベルでの歴史的変遷経過と現状についての関連資料収集、②調査協力大学(米国1校、英国3校、日本5校)のカリキュラム等に関する資料収集、③調査協力大学における学生への意識調査「ソーシャルワーク教育に関する学生アンケート調査」、学生・実習指導者・教員の各フォーカスグループでの聞き取り調査の実施、④①から③を踏まえ、わが国の社会福祉系大学におけるソーシャルワーカーの教育養成プログラムのモデルを提示することを3カ年(2009~2011年)において計画した。現在(2010年9月現在)のところ、①、②、及び③の学生への意識調査は一通

表1 海外（英米およびカナダ）の最新（2004–2009）類似研究一覧表

年	文献
2004	Patrick T. Panos , Gregory L. Pettys, Shirley E. Cox, Elizabeth Jones-Hart : survey of international field education placements of accredited social work education programs, <i>Journal of Social Work Education</i> , 40(3) (Fall 2004). 467-478
2005	Moshe Sherer, Neta Pelegoren : Differences of teachers', field instructors', and students' views on job analysis of social work students, <i>Journal of Social Work Education</i> , 41(2)(Spring/Summer 2005).
	Anne E. Fortune, Mingun Lee, Alonzo Cavazes : Achievement Motivation and outcome in Social Work Field education, <i>Journal of Social Work Education</i> , 41(1) (Winter 2005).
2006	Marian Charles, Harriet Clarke, Hannah Evans : Assessing Fitness to Practice and Managing Work-based Placement Advocacy in Action, <i>Social Work Education</i> , 25(4), (June 2006), 373–384
	Gordon E. Limb, Kurt C. Organista : Change between entry and graduation in MSW student views on social work's traditional mission, career motivations, and practice preferences—Caucasian student of color, and American Indian group comparisons, <i>Journal of Social Work Education</i> , 42(2) (Spring/Summer 2006).
2007	George Wilson, Patrick McCrystal : Motivations and Career Aspirations of MSW Students in Northern Ireland <i>Social Work Education</i> , 26(1), (February 2007), 35–52
	Timothy Auburn : Identity and placement learning—student accounts of the transition back to university following a placement year, <i>Studies in Higher Education</i> , 32(1), (February 2007), 117–133
2008	Effie Maclellan : The significance of motivation in student-centred learning—a reflective case study, <i>Teaching in Higher Education</i> , 13(4), (August 2008), 411-421
2009	Lindsay Hill, Richard Gray, Julia Stroud, Stanford Chiripanyanga : Inter-professional Learning to Prepare Medical and Social Work Students for Practice with Refugees and Asylum Seekers, <i>Social Work Education</i> , 28(3), (April 2009), 298–308
	Rosemary Green, Raelene Gregory , Robyn Mason : Preparing for Social Work Practice in Diverse Contexts—Introducing an Integrated Model for Class Discussion <i>Social Work Education</i> , 28(4), (June 2009), 413–422.
	Sarah Todd , Karen Schwartz : Thinking through Quality in Field Education— Integrating Alternative and Traditional Learning Opportunities, <i>Social Work Education</i> , 28(4), (June 2009), 380–395

り終えた段階にある。ここでは①についての概要をまとめ報告するものとする。なお②については本誌次号にて報告予定であり、また③については、本誌今号において別途報告する。

5. 各国のソーシャルワーク教育の経過と現状

5.1 米国の場合

米国の場合は、地方自治において認可管理体制が確立されていることから、ソーシャルワークの認定や登録は英国や日本と違い州レベルで資格試験を含め管理運営がされている。

一方、ソーシャルワークに関する教育養成に関する大学・大学院のカリキュラム基準や教員基準を定め認可するのは、1952年に設立された、全米社会福祉学校連盟（CSWE：Council on Social Work Education）が担っている。

2007年において、CSWEが認可しているソーシャルワークの学部課程が462校、大学院修士課程は183校、そして博士課程が67校である。同年のCSWEの調査によると（回収率：学部86.1%、修士90.9%、博士76.%）、CSWE認可大学への入学者は、学部は23355名、修士課程では23199名、さらに博士課程は1355名となっている。教員数は、同年において、8590名（常勤4635名、非常勤3955名）であっ

た。ちなみにCSWEが規定している修士課程における教員と院生の比率は1対12であり、学部課程では1対20である⁶⁾。また、学生の男女比は、学部（女性：88.5%、男性：11.5%）、修士課程（女性：87.1%、男性：12.9%）、博士課程（女性：70.7%、男性：25.3%）であった（表2）。ソーシャルワーク学生の主な実習分野は、学部学生では、児童福祉が18.9%、家族サービス11.1%、精神保健9.4%、学校ソーシャルワーク9.3%と続いている、修士課程学生では、精神保健20.3%、児童福祉14.2%、学校ソーシャルワーク11.4%と続いている（表3）。教員の男女比は、女性が66.4%、男性が34.6%であった（表4）。さらに教員の学位取得状況では、修士号は92.7%、博士号（ソーシャルワーク以外）73.3%、博士号（ソーシャルワーク）55.8%となっている（表5）。

5.2 英国の場合

近年の英国においてソーシャルワーカーの取り巻く状況に大きく変化をもたらしたのは、ケア基準法2000（Care Standard Act 2000）であった。この法律は、ソーシャルサービスの基準を高め、一貫したサービスが提供できるようその体系を抜本的に改革するものであった。ソーシャルワーク教育との関連では、すべてのソーシャルワーカーはソーシャルケ

表2 ソーシャルワーク学部入学生（フルタイム）の性差と学位別

	学部	修士課程	博士課程
女性	20,671 88.5%	20,296 87.1%	1,012 70.7%
男性	2,684 11.5%	3,003 12.9%	343 25.3%
計	23,355	23,299	1,355

出典：Annual Survey of Social Work Programs (CSWE 2007)

表3 ソーシャルワーク学生の主な実習先分野（学位別）

学部学生		
児童福祉	2,328	18.9%
家族サービス	1,364	11.1%
精神保健	1,158	9.4%
学校ソーシャルワーク	1,144	9.3%
高齢者ソーシャルワーク	1,060	8.6%
修士課程学生		
精神保健	5,338	20.3%
児童福祉	3,728	14.2%
学校ソーシャルワーク	2,992	11.4%

出典：Annual Survey of Social Work Programs (CSWE 2007)

表4 教員の性差（N：3,066）

女性	2,037	66.4%
男性	1,029	34.6%

出典：Annual Survey of Social Work Programs (CSWE 2007)

表5 教員の学位とライセンス (N: 3,066) 複数回答

修士号	2,817	92.7%
博士号(ソーシャルワーク以外)	2,246	73.3%
博士号(ソーシャルワーク)	1,701	55.8%
複数のライセンス保持	1,588	51.8%

出典: Annual Survey of Social Work Programs (CSWE 2007)

表6 GSCC設立後の登録者数 (2003-2008)

	英国籍	外国籍	学生	計
2003	387			387
2004	23,307	573		23,880
2005	42,888	4,500	8,653	56,041
2006	5,005	1,425	8,055	14,485
2007	4,650	1,043	4,196	9,889
2008	1,532	518	2,609	4,659
計	77,769	8,059	23,513	109,341

出典: Raising Standards Social Work education in England 2003-8 p9 Table1 (GSCC)

ア協議会 (GSCC: General Social Care Council) への登録が義務づけられ、登録しなければソーシャルワーカーの名称を用いることも働くこともできなくなった。さらに従来高校卒業後2年の課程で認められていたソーシャルワーカーの養成が2003年から大学の3年課程の学部または2年課程の大学院で行われることとなった。さらにソーシャルワーカーの養成課程に入学したすべての大学生・大学院生はGSCCに登録しなければならなくなった。

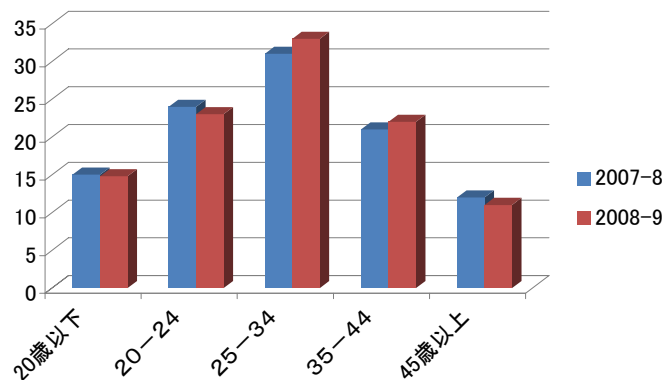
GSCCはケア基準法2000に基づいて、2001年に設立され、2003年よりソーシャルワーカーの登録を開始している。また、従来、大学だけでなく多くの関連団体がソーシャルワーカーの資格を認定してきた経緯があるが、2004年からはGSCCが、ソーシャルワーカーの養成校としての基準が満たしていると認定した大学でなければ、その養成訓練ができない仕組みとなった⁷⁾。

本研究チームは、2010年9月6日に、GSCCの

Graham Ixer会長との会談の機会を得た。そこで提供を受けた資料では、GSCCの登録者は、2008年現在で、英国籍77,769人、外国籍8,059人、学生2,609人となっている(表5)。単純比較できないが、2010年の日本社会福祉士会の会員は29,000人(図4)と公表されている。また、ソーシャルワーク学生の入学年齢では、25-34歳が全体の約30%、35-44歳約20%、45歳以上は約10%であり、高校からストレートに大学に入学したと考えられる20歳以下は約14%であった(図1)。実習先の分野では(2008年)、児童・家族が28.9%、成人サービス10.8%、精神保健10.5%、複合8.2%、高齢者サービス6.1%、学習障害5.4%と続いている(表7)。

5.3 日本の場合

日本におけるソーシャルワーカーの養成は、戦後の占領政策の中で、アメリカでのソーシャルワーク養成のカリキュラムを日本社会事業大学に導入したことから実質的に始まったといえる。そしてソー



出典: Raising Standards Social Work education in England 2008-9 p17 Figure5 (GSCC)

図1 ソーシャルワークの学位を目指す学生の年齢 (2007-8と2008-9) (%)

表7 ソーシャルワーク学生の実習分野 (2005-06/2006-07/2007-08) (%)

実習分野	2005-06	2006-07	2007-08
Adoption	1.0	2.1	2.0
Adult service	6.7	9.7	10.8
Asylum seekers	1.5	0.9	1.0
Work with carers	2.3	1.0	1.0
Children & Families	27.5	27.3	28.9
Child protection	0.9	1.6	1.8
Drug/alcohol/substance misuse	3.0	3.3	3.3
Domestic violence	1.6	1.2	1.5
Educational social work	3.1	2.4	1.8
Hospital social work	2.4	2.1	1.4
housing welfare	2.4	2.3	2.3
Learning disabilities	6.6	5.1	5.4
Learning difficulties	0.7	1.0	0.9
mediation work	0.5	0.2	0.1
mental health	11.0	10.2	10.5
offenders	1.3	1.0	1.0
Older people's services	8.3	6.4	6.1
Physical disabilities	2.2	1.9	2.0
Sensory impairment	0.4	0.5	0.4
Young offenders	2.0	2.0	2.2
other	0.9	3.0	3.3
Multiple	8.5	7.7	8.2
Unknown	5.1	7.0	4.2

出典: Raising Standards Social Work education in England 2008-9 p36 Table8 (GSCC)

ソーシャルワークの専門資格は、1989年の「社会福祉士および介護福祉士法」の成立により実現することになった。

しかしながら、ソーシャルワーカーの国家資格として実現した社会福祉士制度は、多くの課題を抱えた。たとえば「社会福祉士が活躍できる職域の拡大に向けて」（日本社会福祉教育学校連盟・日本社会福祉士養成校協会合同検討委員会、2005）では①国民にとって社会福祉士の活動がみえにくい、認知度が低い、②社会福祉士の任用、受け入れのための制度が未整備である、③社会福祉士養成機関（大学）において、求められる高い実践力を養成できていないことが指摘された。2005年当時で、社会福祉士の任用・活用の状況は、介護施設で生活相談員等に占める社会福祉士は施設約28%、在宅サービス約15%であり、社会福祉士施設等で約6%、福祉事務所職員では約3%であり極めて低比率であった(社会保障審議会資料、2006)。

そのような中、2006年12月、社会保障審議会福祉部会（部会長・岩田正美）は、「介護福祉士制度及び社会福祉士制度の在り方に関する意見」を取りまとめた。審議会の「意見」では、2000年以降の基礎構造改革のもとで、社会福祉士の新しい役割がより明確になってきたこと、その役割を發揮しうる「求められる知識・技術」を身に付けるためには養成課程（実習教育を含む教育カリキュラム等）を含め抜本的な見直しが必要であるとした。審議会の「意

見」を受けて、2007年、冒頭でも示したように、改正法が施行された。

この法改正にともない社会福祉士（ソーシャルワーカー）の養成課程（教育内容）も大きく変わった。新しい教育カリキュラムでは、実践力の高いソーシャルワーカーを養成する観点から、援助技術系科目、演習、実習が強化されている。

なお、ここでは、本研究チームが海外の協力大学に示している、日本のソーシャルワーク教育システムや新しいカリキュラム、さら日本社会福祉学校連盟が公表しているソーシャルワーク教育の鳥瞰図を示す（図2、図3、図4）。

6. 今後の研究の展望

今後は、さらに各国の医療ソーシャルワーカーを含むソーシャルワーカー養成教育の実態を克明に検証するため、担当教員、学生、実習指導者に対して聞き取り調査を実施する。聞き取り調査のフィールドは、現在のところ、日本4大学、英国3大学、米国1大学を拠点として計画している。なお、海外のフィールドの選定理由は、いずれも首都圏ではなく、いわゆる地域性が高く、また米国や英国でソーシャルワークの学部をもつ一般的な大学であることも理由となっている。なお、英国の大学については、ソーシャルワーク演習に関するテキストとして定評の高い「Social Practice ; Assessment, Planning, Intervention and Review」(2003)⁸⁾

Compulsory Components in Undergraduate Social Work Education in Japan Revised Curriculum 2007

Figure 1.

Understanding Human Behavior and the Social Environment **180 hours**

Physiological Health Science	30 hrs
Psychological Theory and Support	30 hrs
Sociological Theory and Social Systems	30 hrs
Contemporary Social Welfare Policy and Services	60 hrs
Introduction to Social Research	30 hrs

Theoretical Approaches to Social Work Practice **180 hours**

Foundations and Specialism in Social Work Practice	60 hrs
Theory and Skill Development in Social Work Practice	120 hrs

Community Based Social Work **135 hours**

Theoretical Approaches to Community Based Social Work	60 hrs
Planning and Funding	60 hrs
Service Management and Organization	15 hrs

Social Service Provision **285 hours**

Social Security	60 hrs
Care for the Elderly	60 hrs
Disability Related Services	30 hrs
Family and Child Welfare Services	30 hrs
Care for the the Disadvantaged and Homeless	30 hrs
Health Care Services	30 hrs
Employment and Unemployment Support Services	15 hrs
Guardianship Services	15 hrs
Probation and Parole Services	15 hrs

Practical Placements and Advanced Workshops **420 hours**

Practice Based Workshops	150 hrs
Pre-Placement Seminars	90 hrs
Practical Placement	180 hrs

図2 改訂カリキュラム (日本) 2007

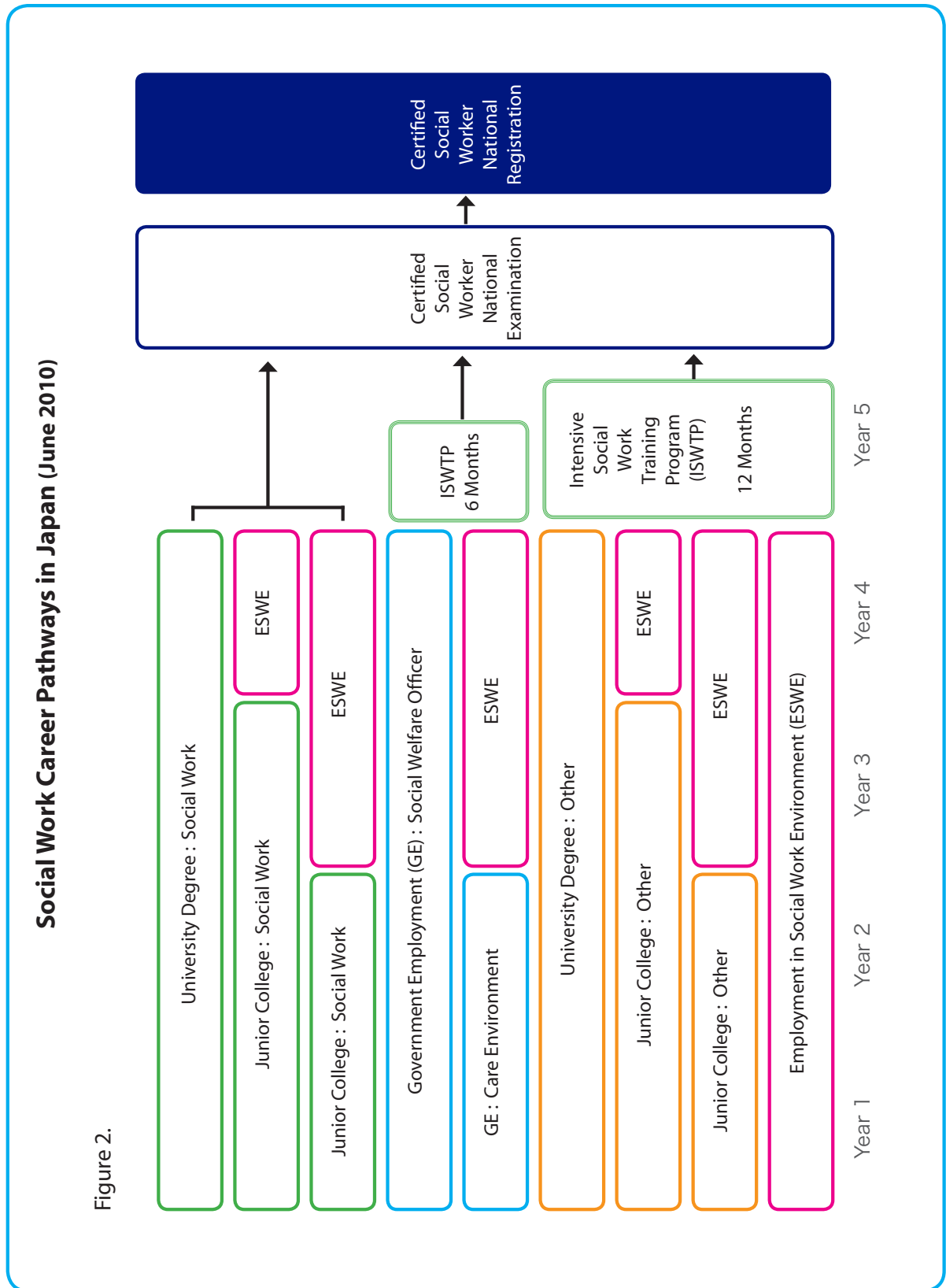


Figure 2.

図3 社会福祉士への道 (日本)

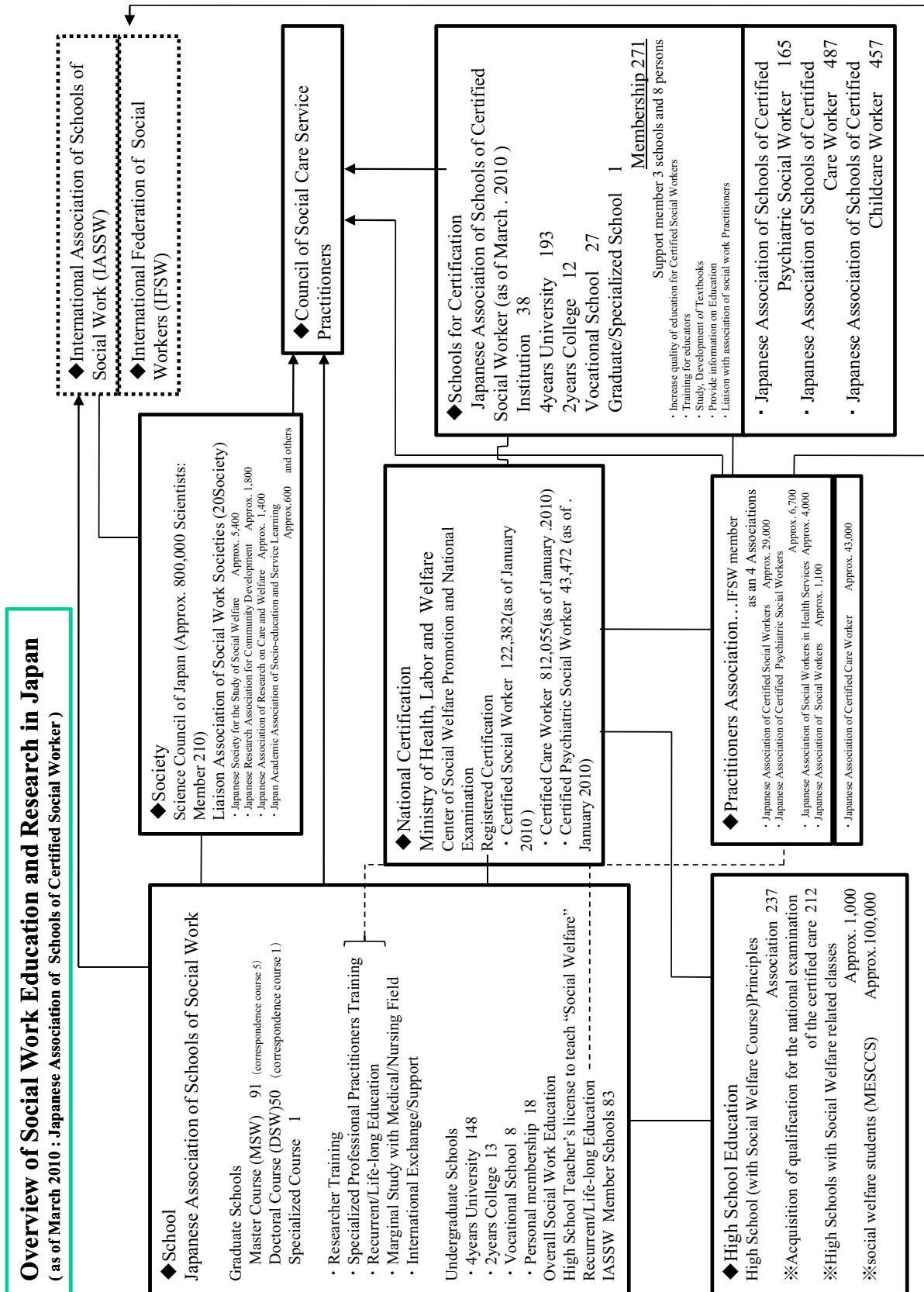


図4 ソーシャルワーク教育の鳥瞰図 (日本社会福祉学校連盟)

の著者Jonathan Parker教授の所属大学であること、また米国の大学については、筆者の一人の翻訳本「医療ソーシャルワーク」(2008)⁹⁾の編著者George Grant教授がソーシャルワークを管轄する学部長を務める大学であることにより、本研究の趣旨理解や共同がスムーズにいったことも選定理由となった。

聞き取り調査は、フォーカスグループを編成し、一定のテーマを決め、自由討議とする。聞き取りの

データは、トランスクリプト(書き起こし)、KJ法を活用したコードの抽出、構造分析の手順によりソーシャルワーカーの教育養成のあり方を帰納的に検証していくこととなる。

本研究は、文部科学省科学研究費補助金基盤研究(B)「医療ソーシャルワーカーの教育養成に関する国際比較研究」(課題番号:21402037,研究代表者 熊谷忠和)の補助金を受けたものである。

文 献

- 1) 日本学術会議社会学委員会社会福祉学分会: 近未来の社会福祉教育のあり方について—ソーシャルワーク専門職資格の再編成に向けて—. 日本学術会議, 2008.
- 2) 京極高宣: 福祉専門職の展望. 全国社会福祉協議会, 東京, 85-102, 1989.
- 3) 平山尚: アメリカにおける社会福祉教育—歴史的発展と現況—. ソーシャルワーク研究, 30(2), 85-92, 2004.
- 4) 金田知子: イギリスのソーシャルワーク教育の展開とその新たな動向—アートからサイエンスへ?—. ソーシャルワーク研究, 30(2), 93-99, 2004.
- 5) 村上信, 濱野強, 藤澤由和: 社会福祉士の学部教育の方向性. 新潟医療福祉学会誌, 8(2), 72-76, 2008.
- 6) CSWE: 2008 Education Policy and Accreditation Standard (EPAS). The Commission on Accreditation, CSWE, 2008.
- 7) 植村英晴: 発祥地英国におけるソーシャルワーク教育. 日本社会事業大学社会事業研究所編, アジアのソーシャルワーク教育, 学苑社, 東京, 157-176, 2007.
- 8) Jonathan Parker and Greta Bradley: Social Work Practice—Assessment, Planning, Intervention and Review. Learnigmatters, 2003.
- 9) ジョーンソン, J., グラント, G (村上信/熊谷忠和訳): 医療ソーシャルワーク—理論と事例検討—. 晃洋書房, 京都, 2008.

(平成22年10月26日受理)

Overview of a Tripartite Study of Approaches to Social Work Education for Health Settings in Japan, the US and UK

Tadakazu KUMAGAI, Shinji INOUE and Tim CLEMINSON

(Accepted Oct. 26, 2010)

Key words : social work education, health setting, tripartite study, overview

Abstract

The aim of this research is to create a comprehensive educational model for the training of public health social workers. One of the key areas in this study is the role of practical placements (field education) in the undergraduate and graduate curriculum. The researchers intend to build their model based on the results of a tripartite study of teaching approaches and student expectations in Japan, the US and the UK. This report is its overview.

Correspondence to : Tadakazu KUMAGAI

Department of Social Work, Faculty of Health and Welfare
Kawasaki University of Medical Welfare

Kurashiki, 701-0193, Japan

E-Mail : tkumagai@mw.kawasaki-m.ac.jp

(Kawasaki Medical Welfare Journal Vol.20, No.2, 2011 437-446)